

パンデミック時代における科学技術と想像力

2020年から続いているパンデミック時代の課題を解決する道を探るため、過去や現在の問題に対する分析を行う人文・社会学者、未来の科学技術や社会を生み出す科学技術者や政策・教育の実践者、想像力をもって顕在化していなかった課題を現前させる作家・文学者との協働と共創の場として国際シンポジウムを開催いたします。

日英同時
通訳付き

挨拶 重原孝臣 (埼玉大学理事)

2021年3月27日(土) 9:00 - 13:30

第1部 プレナリーセッション「科学技術と想像力」

長谷敏司

「基調報告1 巨大リスクと生活の想像力」

SF作家。日本SF作家クラブ理事。「戦略拠点32098 楽園」(角川スニーカー文庫、2001年)で第6回スニーカー大賞金賞受賞。『My Humanity』(ハヤカワ文庫JA、2014年)で第35回日本SF大賞受賞。『BEATLESS』の世界観と設定をオープンソースにする「アナログハック・オープンリソース」を運営している。



一田和樹

「基調報告2 民主主義のゼロデイ脆弱性」

作家。IT企業経営者を経て、綿密な調査とITの知識をベースに、現実が起こりうるサイバー空間での情報戦を描く小説やノンフィクションの執筆活動を行う作家に。著書に『フェイクニュース:新しい戦略的戦争兵器』(角川新書、2018年)など多数。



第2部 パンデミック時代における科学技術がもたらす協働と分断化

井上智洋 (駒澤大学経済学部准教授)

金井郁 (埼玉大学人文社会科学部研究科教授)

「人工知能と雇用の未来」

「コロナによる対面営業の変化とジェンダー:生命保険営業の事例から」

【総合司会】山崎敬一(埼玉大学人文社会科学部研究科教授)

【第1部司会】杉浦晋(埼玉大学人文社会科学部研究科教授)・久木田水生(名古屋大学情報学研究科准教授)

【第2部司会】小林亜子(埼玉大学人文社会科学部研究科教授)・久木田水生(名古屋大学情報学研究科准教授)

【全体討論パネリスト】司会者・登壇者・運営委員

挨拶 坂井貴文 (埼玉大学学長)

2021年3月28日(日) 9:00 - 13:30

第3部 プレナリーセッション「科学技術と想像力」

沼野充義

「基調報告3 空想する文学と世界終末のヴィジョン: ロシア・東欧作家たちは危機とどう向き合ってきたか」

名古屋外国語大学副学長。東京大学名誉教授。スタニスワフ・レムをはじめとする東欧SFの紹介者としても著名。著書に『チャーホフ七分の絶望と三分の希望』(講談社、2016年)、訳書にスタニスワフ・レム『ソラリス』(ハヤカワ文庫SF、2015年)など多数。



立原透耶

「基調報告4 中国SFと文明、教育」

1991年『夢売りのたまご』でコバルト読者大賞受賞。『立原透耶 著作集』(全5巻/彩流社)などSFやファンタジー、ホラー小説を執筆。また中華圏SFの紹介者として活動中。『三体』監修のほか王晋康、韓松、郝景芳などの翻訳を担当。2018年より中日科幻文化交流大使を拜命中。



第4部 パンデミック後の知能と社会

安西祐一郎

(日本学術振興会顧問・元中央教育審議会会長)

「共感の認識論」

暦本純一(東京大学情報学環教授)

「Augmented Society: 人間拡張がつくる未来社会」

村上祐子(立教大学教授)

「誰も取り残さない社会に備える情報教育」

【総合司会】山崎敬一(埼玉大学人文社会科学部研究科教授)

【第3部司会】野中進(埼玉大学人文社会科学部研究科教授)・大澤博隆(筑波大学システム情報系助教)

【第4部司会】大澤博隆(筑波大学システム情報系助教)

【全体討論パネリスト】長谷敏司、一田和樹、戸田山和久(名古屋大学情報学研究科教授)、司会者・登壇者・運営委員

【主催】埼玉大学

【共催】「パンデミック時代における協働の諸方法研究会」(代表・山崎敬一)

科学研究費挑戦的研究(萌芽)「語り・身体・イメージの連関と変容の学際的研究—エスノメディアロジーの構築」(代表・山崎敬一)

(第2部) 基盤研究(A)「ポストトゥルースの時代における新しい情報リテラシーの学際的探求」(代表・久木田水生)

(第4部) JST RISTEX HITE 想像力のアップデート: 人工知能のデザインフィクション (代表・大澤博隆)

申し込み期限 ● 3月19日(金)、申し込み方法 ● Google フォーム